情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会　ワイヤレス電力伝送作業班(第 16 回)

議事要旨

１　開催日時：令和６年３月 27 日（水）15:00～16:15

２　開催場所：Web 会議開催(Cisco Webex)

３　出席者（敬称略）

【構成員】藤野主任(東洋大学)、村野主任代理(東海大学)、雨宮構成員(VCCI)、大西構成員(NICT)、久保田構成員（TELEC)、幸島構成員(JARL)、齋藤構成員(NHK)、佐々木構成員(名古屋工大)、七野構成員(キヤノン)、庄木構成員(BWF)、中島構成員（CIAJ)、仁井田構成員(民放連)、野坂構成員(海上保安庁)、堀構成員（SONY グループ)、松本構成員(NICT)、松山構成員(ARIB)

【オブザーバー】宮本関係者(JARL)

【事務局】総務省：内藤電波環境課長、今泉電波監視官、郷藤電磁障害係長、木村官

４　**議事要旨**

（１）アグリゲーション影響の再検討結果について

アグリゲーション影響の再検討結果について、庄木構成員より資料 16-1 及び 16-2 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

藤野主任　：アグリゲーションについて BWF 内で検討した結果、ユースケースにおいて 1kW クラスの装置を複数稼働させる場合があり、許容値を 6dB ほど下げたいという提案ということで宜しいか。

庄木構成員：ご認識のとおり。

（２）電波利用環境委員会報告（案）について

次に、電波利用環境委員会報告（案）について、事務局より資料 16-3 及び資料 16-4 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

藤野主任　：「管理環境」という用語について、基本的には「防護指針上の管理環境」と明記されているが、資料 16-4 の 44 ページには「管理環境」とのみ記載されているため、これについても「防護指針上の管理環境」として修正した方がよいかと思う。空間伝送型 WPT の検討において、「WPT 管理環境」という用語が用いられるため、誤解される恐れがある。

また、資料 16-3 の 4 ページにおいて、アグリゲーションとは何かが記載されていない。「複数台設置した際の影響、すなわちアグリゲーション」等と記載したほう

が良い。

事務局　　：修正する。

幸島構成員：資料 16-4 の 18 ページの図 3.1-7 について、本文中では「帯域外への放射は基本的にはかなり低いと考えられる。」と記載されている。かなり低いように見えなくもないが、ノイズレベルがキャリアのレベルから約 60dB 低いということだけで、それ以上のことは確認できない。

次に、22 ページの図 3.1-13 では WPT の ON/OFF 時の測定結果が掲載されており、趣旨としては ON/OFF 時で変化は見られないということだと思うが、この図では非常に強い短波放送の電波が現れているものと推察する。この図において、ノイズレベルが-20dBμA/m 程度で、確かにこのレベルより WPT の妨害波が低いということは確認できるかと思う。しかし、アマチュア無線で受信している電波はこのノイズレベルより数十 dB 低く、この測定環境のように都市のノイズレベルが大きい場合にはアマチュア無線に影響がないと言えるが、住宅地や郊外ではこのノイズレベルは下がる。また、測定器およびアンテナがどういった状態で測定を行ったか確認できないが、このノイズレベルが測定器の内部雑音でないかどうかも懸念している。アマチュア無線で扱っている電波はこれより遙かに低いため、「影響は少ない」とされているのはその通りかもしれないが、かなり不安が残る状態である。「ノイズの多い都市部であれば影響は少ない」ということになるのではないかと思う。

藤野主任　　：本意見の扱いについてうかがいたい。ご意見として承れば良いか。

幸島構成員　：コメントとして申し上げることかと思っている。

藤野主任　　：了。ご発言いただいた指摘があった旨は議事概要に掲載される。

（３）その他

これまでの検討について、庄木構成員および佐々木構成員より構成員各位に対して謝意が示された。

また、今後のスケジュールについて、事務局より資料 16-5 に基づき説明が行われた。

以上